



東原庫舎通学合宿パラリンピック「ボッチャ」

議会だより

令和元年
9月定例会
第42号

※令和元年9月定例会一般質問については、「令和元年8月の前線に伴う大雨災害」により中止しました。

目次 contents

主な議案 ▶▶ P2
議案質疑 ▶▶ P3
審査報告 ▶▶ P5

修正案・討論 ▶▶▶▶▶▶▶ P7
まちで発見！・議会報告会 ▶▶ P8



QRコード読み取って
ホームページにアクセス！



～佐賀藩を代表する学者・文化人～

くさば はい せん
『草場 佩川』と

天明7年(1787年)～ 慶応3年(1867年)

～幕末-明治時代の漢学者～

くさば せん ざん
『草場 船山』

文政2年(1819年)～ 明治20年(1887年)



くさば はい せん
草場 佩川

父

25歳で奇才と呼ばれた佐賀藩校「弘道館」の中心人物！記録や書画などの豊富な資料を残し、武士から庶民まで幅広くの人材を育成しました。

多久出身で活躍した人物紹介の第3弾です！

肥前さが幕末維新博でもとりあげられていましたが、明治政府で活躍した大隈重信・副島種臣・大木喬任・江藤新平らが、佐賀藩校弘道館で学んでいた時に教諭・教授だった「草場佩川」。佩川は幼い頃から非凡で、8歳で東原庫舎に入学し、18歳の時、邑主の命により、佐賀藩校弘道館で学び、22歳の時、古賀精里（「寛政の三博士」「寛政の三助」といわれた学者）に入門しました。25歳の時には朝鮮通信使の接待役となった精里に従い対馬へ行き、通信使を応接しました。この時の記録『津島日記』は、交流の実相を記した貴重な資料になっています。

帰国後は東原庫舎の教諭となり、後に藩校弘道館教諭・教授となりました。佩川は学問だけではなく、武芸・詩歌・絵画などにも優れ、漢詩集『珮川詩鈔』は何度も版を重ねるなど好評を博しました。

享年81歳、墓所は多久町撰分の山の中腹の大古場墓地にあり、佩川の生家跡地や聖廟が一望できます。



▲草場佩川
《筆津島日記(朝鮮通信使行列図)》
[多久市郷土資料館蔵]



▲草場佩川《竹図並賛金地屏風-左隻-》[多久市郷土資料館蔵]

【右】草場佩川《牡丹に蝶図並賛》
[個人蔵]▶

【左】草場佩川《双鶴図並賛》
[個人蔵]▶



くさば せん ざん
草場 船山

草場佩川の長男で、父に付き家学を修め、のちに江戸に遊学しました。帰郷後は、佐久の郷校「多久聖堂」で教え、その後、対馬の厳原藩の招きで藩校で教えました。伊万里市の大川小学校の前身といわれる学舎「本立堂」を設立したのは草場船山です。

著書に『日本史略伝』、『皇朝歴代歌』『三国史略』等があります。



「議会報告会」のお知らせ

11月12日(火) 19:00～20:30
東多久公民館・多久公民館・西多久公民館

11月13日(水) 19:00～20:30
納所交流センター・南多久公民館・北多久公民館

多久市議会では、議会基本条例に基づき「議会報告会」を上記のとおり開催します。みなさんの参加をお待ちしております。
※どこの会場でも自由に参加できます。



議長 榊島 永二 郎
副議長 古賀 公彦
委員 香月 野北 正則 悟 鷺崎 義雄 彦